

工事スケジュール

工 程 表	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	～令和12年 (2030)
下部工(A1)工事 (施工:榑橋本店)									
下部工(P1)工事 (施工:橋本店・河北建設JV)									
下部工(A2)工事 (施工:榑橋本店)									
上部工工事(施工:駒井ハルテック、三井住友建設鉄構エンジニアリング、角藤JV)									
工場製作									
上部工架設(P1～A2) (クレーンベント架設)									
上部工架設(A1～P1) (送出し架設)									
床板、付帯施設									
橋梁取付部、交差点改良工事									
旧橋撤去工事									

供用開始予定

上部工施工状況



P1橋脚～A2橋台間
桁架設

令和6年1月26日撮影

資料提供：駒井ハルテック・三井住友建設鉄構
エンジニアリング・角藤 共同企業体

A1橋台～P1橋脚間
送出し架設

令和6年9月4日撮影



資料提供：駒井ハルテック・三井住友建設鉄構
エンジニアリング・角藤 共同企業体

Miyazawabashi Pride

広瀬川のシンボルとして、仙台市民に親しまれた宮沢橋の景観を後世に残すため、意匠（色彩）に配慮した計画としております。



広瀬川を代表する景色として掲載されております。

事業者



仙台市建設局道路部南道路建設課
〒980-0802
仙台市青葉区二日町12-34
(株)オンワード樫山仙台ビル5階
☎022-214-8378

工事に関するお知らせを、仙台市ホームページで公開しております。

仙台市ホーム > くらしの情報 > 住みよい街に > 交通・道路 > 道路 > 道路工事などのお知らせ > 工事のお知らせ（若林区、太白区）



施工者

〔設計〕
国際航業株式会社
〔下部工〕
株式会社橋本店
橋本店・河北建設共同企業体
〔上部工〕
駒井ハルテック・三井住友建設鉄構エンジニアリング・角藤共同企業体

上部工工事の詳細は

宮沢橋上部工工事

検索



南小泉茂庭線（宮沢橋工区）事業概要



宮沢橋完成イメージ

宮沢橋Historia



資料提供：仙台市戦災復興記念館

昭和初期

木杭の上に板を渡しただけの簡素な橋だった。
渡るには通行料が必要であり、通称「一銭橋」と呼ばれていた。



資料提供：仙台市戦災復興記念館



資料提供：仙台市戦災復興記念館

昭和30年

度重なる水害による流失を受け、鋼製の橋が建設された。
建設当時は歩道のない橋だった。



資料提供：広瀬川創生プラン



現在

昭和49～50年に歩道部を設置、その後の耐震補強を経て現在に至る。

Miyazawabashi Pride



仙台市

事業概要

仙台市では、公共交通を中心とした交通体系や、災害時も含めた人や物の流れなど、都市活動を支える幹線道路ネットワークの整備を進めております。

宮沢橋はJR仙台駅の南側約2kmに位置し、一級河川広瀬川を渡河する重要な橋となっております。しかしながら、交通量の増大に伴い片側1車線であることから、慢性的な交通混雑が発生しております。

また、起点側の宮沢橋交差点は、変則五差路の交差点形状のため、仙台市内で事故件数が多い交差点となっております。

このため、本事業では約30m上流側に新しい橋を整備すると共に、宮沢橋交差点の改良を併せて実施し、交通の円滑化と交通安全の向上を図ることを目的としております。



道路計画概要

事業区間	起点	センダイシ ワカバヤシクワナチヨ ウ 仙台市若林区舟丁
	終点	センダイシ タイハクウ ネギシマチ 仙台市太白区根岸町
延長	L=	300.0m
幅員	W=	26.0～36.0m
道路規格		第4種第1級
設計速度	V=	60km/h
設計交通量		41,900台/日
事業期間		平成29年～令和13年
事業費		約102億円

橋梁設計条件

道路条件	平面線形	R=∞
	縦断勾配	0.4%上り
	横断勾配	車道2.0% 歩道1.0%
橋梁条件	活荷重	B活荷重
	雪荷重	なし
	橋長	L=145.9m
	桁長	L=144.5m
	支間長	L=71.1m+71.2m
	幅員	W=25.8m（車道3.25×4、歩道3.5×2）
上部構造		鋼2径間連続箱桁橋（5主桁 鋼材重量1,533 t）
下部構造	橋台	ラーメン式橋台
	橋脚	小判型壁式橋脚
基礎構造		場所打ち杭φ1500 L=12.5～22.5m 69本

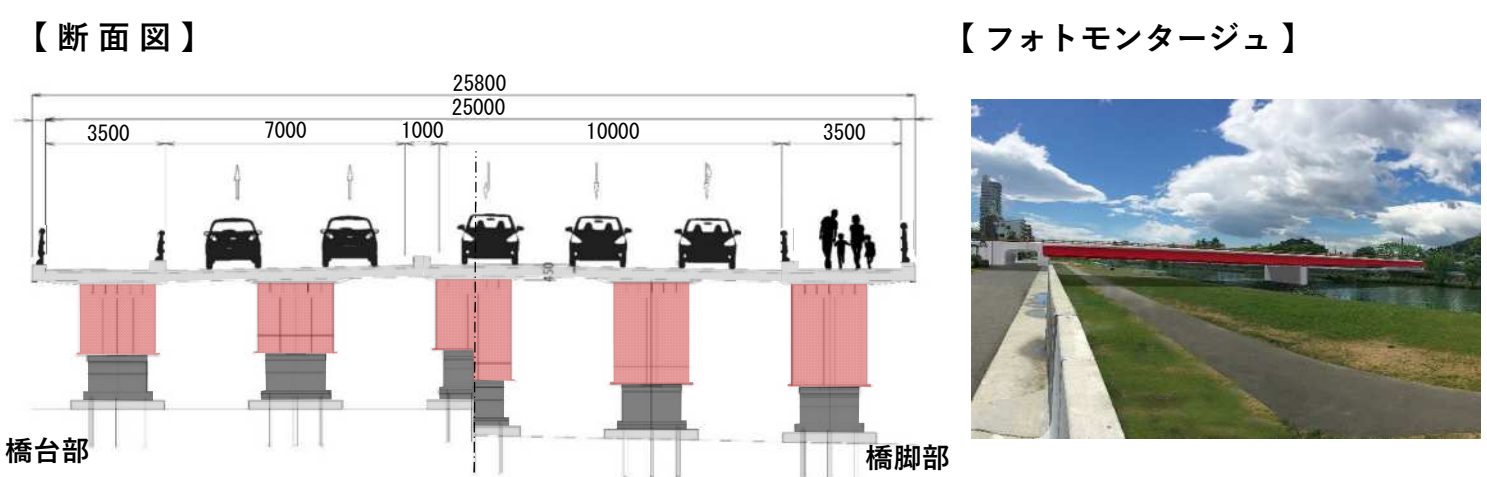
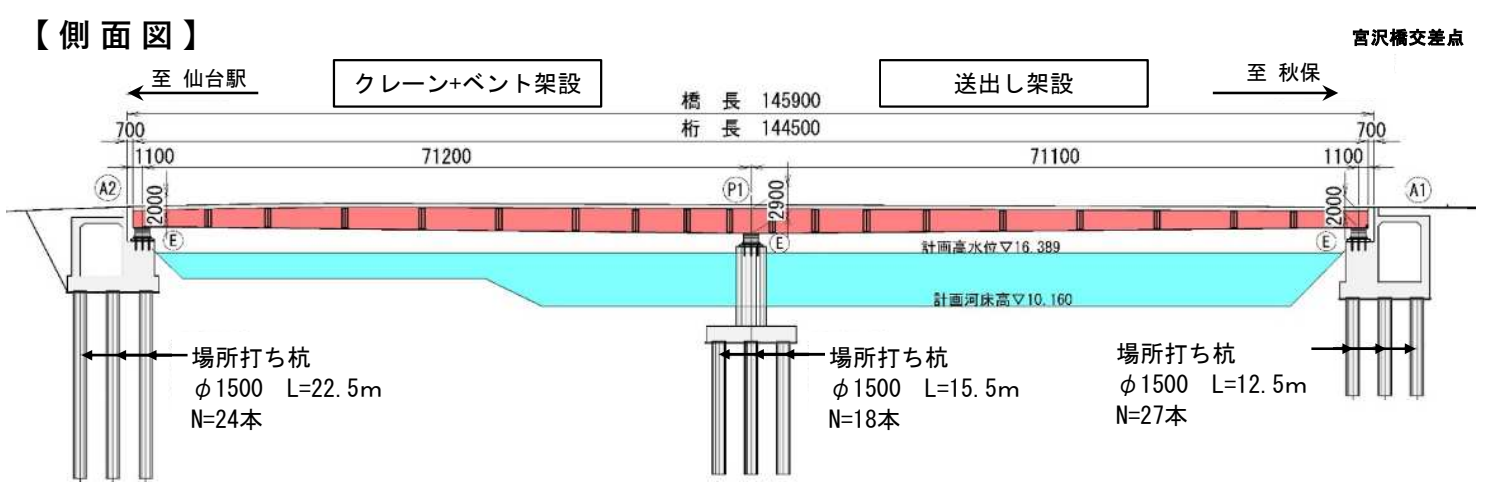
〔 幹線道路ネットワーク 〕



宮沢橋工区の完成により、宮沢根白石線（令和4年度末完成）を経由して国道45号と国道286号が接続されることとなり、仙台市東部地域と西部地域のアクセス向上、都心部の交通円滑化が見込まれます。

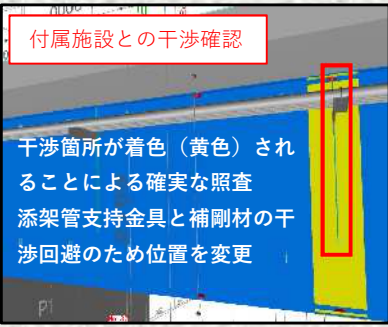


橋梁一般図



生産性向上への取組み

【CIMの活用】
設計データの3次元化により、本体構造物と付属施設（添架施設、検査路等）の取合いを事前に確認し、設計・製作に反映することで、現場作業時の手戻り（工程遅延）防止と、将来のメンテナンス性の向上に配慮しております。



計画図では確認できない細部の取合いや、高低差・離隔等が3次元化により可視化されます。

【MR（複合現実）の活用】

右岸側架設は、交通量の多い交差点内での手延べ機解体など、厳しい制約の中での工事となることから、4次元化（時間軸）シミュレーションに加え、実際の現場での作業手順確認、安全管理、各種協議等にMR技術を活用しております。

